

# 夢サラダ Vol.31

2006.4.1 発行

連携・協働でかわるまち  
 市民活動の拠点を目指しています。  
 「今治市民活動センター」  
 運営：(特非) 今治NPOサポートセンター  
 【お問合せ】TEL/FAX 25-8234

## 2006年度始動！今治市民活動センター！

市民活動の役割に対する期待が高まり、行政と市民団体との協働にも注目が集まっています。市民活動センターはより豊かな地域づくりを目指す、市民団体、ボランティアの拠点です。お気軽にお立ち寄りください。

■開館日 月～土 10:00～19:00  
 (事前予約があれば 22:00 まで)  
 ■休館日 日・祝日  
 (事前予約があれば開館します)



ボランティアをしてみたいな  
 団体運営で困ったことが…

- 「ボランティアがしたい」「ボランティアに力を貸して欲しい」等々、互いのニーズのマッチングをしています。
- 市民団体の設立・運営などの相談を行っています。



NPOのことをもっと知りたいな  
 仲間と運営について学びたいな

- 市民活動のいろはを学ぶ「市民活動基礎講座」を開催しています。講座の内容は月変わりです。2006年度は5回の講座を予定しています。



自分たちの活動をPRしたいな  
 いろいろな人と交流したいな

- 団体のチラシ・リフレットを館内に置いたり、他機関に郵送したりするお手伝いをしています。また、皆さんの情報で作る機関紙「夢サラダ」を発行しています。ご活用ください。
- 分野や地域を超えて交流できる座談会を開催し、ネットワーク構築を支援しています。



ミーティングができる場所  
 はないかな

- 会議スペース  
 大会議室(約 20 名) 中会議室 2 部屋(約 10 名)  
 コピー機・輪転機(実費)を設置していますので、チラシやパンフレット作成にお役立てください。

詳しくは、今治市民活動センター指定管理者「今治 NPO サポートセンター」HP で！  
 URL : <http://www.ehime-iinet.or.jp/imanpo/index.htm>



### ホームページをリニューアルしました！

- 情報誌「夢サラダ」がホームページ上で見られるよ！
- チラシ・リフレットのおける場所を調べよう！
- ボランティア情報、各種イベント・講座、助成金情報を随時アップ！
- 「市民活動お役立ち情報集」で、新今治市全域の施設の利用や開催イベントの情報を調べよう！



### 事務所借りませんか？

今治市民活動センターの個室を事務所として開放します。

- 1室1月あたりの使用料 家賃…5,000円 光熱費…3,000円 合計 8,000円
- 広さ…ビジネスホテルのシングルルームの広さ(12平方メートル)
- 使用許可申請の申込期限…4月12日(水)午後5時15分必着
- 応募書類、その他詳細は、下記までお問合せください。  
 今治市企画振興部市民まちづくり推進課 ☎36-1515  
 今治市民活動センター ☎/FAX 25-8234

## 第7回 上浦盛研修センター



昭和 53 年に地域の生涯学習の場として開設されたこの施設。PTA、婦人会、部落の行事(盆踊り、祭り、獅子舞の練習)に利用されたり、味噌などの保存食作りなどの料理講習会が開かれたりしています。また、盛地区の主力である農業後継者団体の会合も行われ、住民のコミュニティ活動の場となり、地域の生活文化の振興に一役買っています。

また、上浦町では水を浄化する働きをし、環境に優しい EM 菌活動が盛んですが、上浦盛研修センターでは EM 菌が設置され、地域の方が身近に取り組めるよう工夫されています。



TV会議に参加できる情報端末。

### —市民活動団体の集う場—

100 名ほどが利用できる大ホール、20 名程度が利用できる和室、研修室、生活改善室(調理室)、と様々な用途に適したつくりになっています。大ホールには、カラオケセットの設備が充実しており、住民のみなさんに喜ばれています。インターネットにつながれている端末では、情報を検索したり、TV会議に参加したりすることもできます。これは、各支所、公民館などにも設置されており、新今治市のネットワーク構築に役立っています。

開館時間	8時30分～22時00分
休館日	日曜日、祝日、年末年始
利用申込	来館の上、申請書を提出
住所	今治市上浦町盛 2642
T E L	0897-87-2550
担当課	今治市役所上浦支所 地域教育課



### 今治市の魅力再発見！

## 書道家 村上三島

書の展覧会といえば隷書(れいしよ)や行書(ぎょうしよ)などの書体を使った漢詩や漢文の作品、また俳句や歌を変体がなで書いた作品が大部分を占めます。しかし、村上三島記念館には私たちが魅了する新しい書が展示されています。

1998年に文化勲章を受章した書家・村上三島は、篆(てん)、隷(れい)、楷(かい)、行(ぎょう)、草(そう)の五書体を駆使して作品を生み出します。これは調和体と呼ばれ、漢字・平かな・カタカナの三種の文字からなり、わかりやすく親しみやすいのが特徴です。時に力強く、時に美しく、優しく、厳しく…その自在な書体と迫力は、記念館を訪れた人を魅了しています。



村上三島記念館(上浦芸術会館)

開館時間：9時～17時  
休館日：月曜日、年末年始

# 連携・協働でかわるまち

市町村合併により広域化した新今治市。山間部、島しょ部、都市部と、様々な特色を持つまちを舞台に、地域性を活かした市民活動が展開されています。これは、身近な地域課題からスタートし、社会変革を目指すもの。ただ、まだまだ脆弱な市民団体。目的達成には企画力、広報力、評価力など多様な力をつけなければなりません。そんな中、1つの目的を達成するために団体同士が手を取り合う「連携」、立場の違いを越え組織が協力する「協働」に注目が集まっています。1つの組織では実現できなくても複数の組織が知恵を集めることで課題解決につながります。今回はその魅力を紹介します。

## 事例①市民団体の連携

去る平成17年7月12日、今治市中央住民センターで行われた朗読劇「この子たちの夏」。  
今治市で鑑賞活動を行っている「いまばり市民劇場」、



「今治映画鑑賞会」、  
「今治おやこ劇場」  
の3団体の連携により公演が実現しました。

### いまばり市民劇場

すぐれた演劇を今治市で見たいという人たちが集まって作った会員制の演劇鑑賞団体。年に6回、演劇を鑑賞しています。

### 今治映画鑑賞会

今治市では見ることのできない質の高い映画を市民のみなさんと鑑賞できるよう、映画上映のための活動を行っています。

### 今治おやこ劇場

子どものために年に4～5回優れた舞台美術の鑑賞会を実施しています。児童文化の発展に努力するとともに、子どもたちが豊かに成長することを目指して活動しています。

連携の様子を「いまばり市民劇場」大政さん、「今治映画鑑賞会」三木さんにうかがいました。

### Q. 上演のきっかけは？

「今治映画鑑賞会」のメンバーが新居浜市での上演を見て感動し、ぜひ今治市でもたくさんの人に見てもらいたい、という願いから実現しました。

### Q. 3団体が連携したメリットは？

劇団への依頼は、普段交流のある「いまばり市民劇場」が行うなど、3団体が役割分担を行いました。

上演にあたっては、高校生ボランティアを募集し、多くの参加を得ることができました。これは3団体が連携したことによってネットワークが広がった結果ではないでしょうか。

### Q. 連携して大変だったことは？

各団体から2名ずつ集まり実行委員会を結成しました。実行委員会での決定事項を各団体のメンバー全員で共有することが大変でした。



実行委員会の様子

### Q. 公演を行った感想は？

優れた生の舞台を鑑賞することにより、世代を超えて感動を共有できました。上演後には非常にたくさんの方の感想文が寄せられ、その手ごたえを感じています。今回の公演は、これから今治市が「文化あふれるまち」になるための活動につながると思います。

この公演は「市民が共におこすまちづくり事業」の助成を受け実施されました。これは、今治市が市民自らが企画し実施するまちづくり事業に対し助成を行うものです。取り組みを市が補助し、官民の役割分担がなされています。



## 事例②市民団体と行政との協働

### ■NPO 法人えひめグローバルネットワーク(わくわく)の活動

「わくわく」は、モザンビークのNGO(モザンビークキリスト教評議会CCM)が進める「銃を鋏へプロジェクト」を支援しています。これは約30年間にわたる内戦によってモザンビーク国内に出回った武器を回収し生活必需品と交換する活動です。生活必需品として「わくわく」が注目したのは松山市の放置自転車。この無償譲渡を松山市に依頼しました。

### ■松山市の放置自転車問題

松山市で撤去される放置自転車は平成14年で年間約1万2千台にのぼり、半数弱は持ち主に戻るものの、約3000台が廃棄処分されました。わくわくの譲渡希望の声は松山市にとっても有益なもの。国際支援の活動と松山市の生活課題が結びつき、「協働」が実現しました。

### ■放置自転車問題から見た新たな課題

放置自転車の多さを目の当たりにすると「放置自転車をモザンビークに送る」支援事業とは別に、「私たちの住む松山市の放置自転車問題」という生活に密着した新たな課題が見えてきました。ボランティアからは「自分たちが放置した自転車がモザンビークで役に立つことを考えると、良いことなのか悪いことなのか。自分たちの怠慢を見せるようで恥ずかしい気がする」という声が聞かれます。

モザンビークへの自転車輸送作業はワークショップそのもの。市民が直接関わることで、モザンビークの問題だけでなく、放置自転車という足元の問題に気づき、自分たちの意識や行動を変えることになりました。

「参加」することから地域の人々をつなぎ、学び、それが「まちづくり」につながります。

### ■活動を支える若者の声

林 知美さん：わくわくに関わり、幅広い市民参加による松山発の国際協力活動を行っていくことの大切さを学んでいます。今後は、特にモザンビーク事業を通じて「学び」を「行動」へ移していきたいです。

門田 啓吾さん：HP作成という自分の趣味を通して、わくわくに関わり始めました。HP作成やちらしの作成、また、たくさんの人との出会いを通して、学びながら活動しています。



コンテナ積み込み作業風景

### ■市民団体と行政の協働のために

代表の竹内よし子さんは「協働していくうえで大事なことは、対等な立場で対話すること。お互いの立場は違っても、ひとつの目標に向かって課題を解決しようという思いがあれば、対話を重ねるごとに突破口は見つかるはず」と言います。

連携・協働により生まれる魅力はおわかりいただけましたか？成功の秘訣は一つの目標に向かいお互いの特性を活かすことにあります。

次号では、その「協働」を適切に進める環境がどれだけ整えられているかを示す『協働環境調査』について特集します。

皆様のご意見を参考に記事を作成していきます。20日までにメールやFAXでご意見をお寄せください。

今治NPOサポートセンター

〒794-0026 今治市別宮町8丁目1-55

TEL/FAX 0898-34-8515

E-mail imanpo@us.ehime-iinet.or.jp